

# 雨の中、意気高くデモ行進

## 第九十回メーデー万歳！

田中正



第90回メーデー高知県中央集会（高退協参加約20名）

格差是正や長時間労働の是正、消費税増税反対、参院選勝利などが力強く訴えられました。その後半を強く、高退協旗やプラカードを高く掲げてデモ行進をしました。最後は高知城ホールで参加団体による懇親会が開かれ、高教組現職とも楽しく交流しました。高退協からは、集会、デモ行進、懇親会を含めて合計十七名が参加し、メーデーの成功と互いの健康を祝いました。

今年のメーデーでは、嬉しいことがいくつかありました。退職して六年、現場が忙しく、また職場から離れることがなかなか難しい状況で集会に集まりにくかった現職の高教組組合員が多く参加していたこと、行進途中から土居さんが合流したこと、高教組のメーデープラカードが好評で主催者審査で二位になったこと（高退協会員曰く「腕がだれた」）などです。そして懇親

会も退職、現職とも普段の年以上に大変多くの参加者で、手足数は足りず、机も椅子も方々からかき集めてきて盛大に盃を交換し、交歓できたことでした。十連休で学校が休みとはいえ、メーデーにも懇親会にも参加する現職・高教組のエネルギーにも触れ、教育現場で生き生きと児童生徒と向き合い、そして活動する姿に感動しました。とつても楽しい、元気が注入された時間であってくれたです。二位の商品のビールもおおすそ分けしてもらい、併せてお礼を言わせていただきます。ありがとうございます、明日からも（連休明けから）お互いに頑張りましょう。

雨の中を行進



# 全退教定期総会

## 高知高退協・県退教からも発言

橋元 陽一



全退教第29回定期総会

6月4・5日に全退教第29回定期総会が開催されました。50都道府県・高組から97人の参加で、全体会・分散会で活動交流を深めました。長谷川会長のあいさつに続き、土方全教副委員長から「高大連携と称し大入学共通テスト実施説明会では受験産業ベネッセへ丸投げしている実態にあること、学校現場の長時間過密労働で教師希望者が減少している全国状況などが報告されました。特別報告では全沖連退教宮城連会長より「沖連県民の意思は明確に辺野古新基地を絶対につくらせない」闘いが報告されました。続いて記念ミニ講演がありました。埼玉大大学教授馬場久志氏が新学習指導

要領が本格実施となった中で「今の子どもたちの志趣と成長の展望」と題して、「学力向上と世界のトップ」をめざし、「競争意識の寛容、全国学力テスト」を重視する教育体制がつくれ、政府財源が求められる人材づくりになることを痛感されました。全体会の討論では、三谷谷会長が天皇即位報道一色に染まる報道問題など、橋元副会長がビキニ問題、訴訟・労災申請の動向、県退教橋田さんが紙芝居『ビキニの海の願い』について発言しました。翌日は6つの分散会に分かれ、安倍政権の憲法は次をゆるさず、憲法を生かし教育の困難を克服していくために、退教は何をすべきか、「生き生きとした親睦交流活動はどう進めるか。会員増やし・世代継承はどう取り組むか」のテーマで意見交流しました。分拒金の基準については、各組織の実情を踏まえながら対応することを原則にして、2020年度から適用することを承認しました。

# 憲法施行72周年県民の集い

## 「代替わりでどうなる憲法」 「どうする憲法」

飯田清久



憲法施行72周年県民のつどい 代替わりでどうなる憲法 どうする憲法

5月3日、憲法施行72周年の集いが、高知城ホールで270人が参加し開催されました。講師は森英樹名古屋大学名誉教授。テーマは「代替わりでどうなる憲法 どうする憲法」―象徴天皇制と憲法―明快な論調で、天皇代替わりと改元を利用したアベ改憲の危険な動向を分析してくれました。

天皇による歴史支配・時間支配である改元を、「平成回顧・令和展望」などあたかも何か新しいものが始まる期待感を装いながら市民社会の中にお祭りイベント化させている一方、そもそもその問題である「国民主権と象徴天皇制」という基本問題、とりわけ代替わりに伴う一連の祭祀行事と政教分離の原則、象徴としての役割と国事行為といった、憲法そのものに深くかかわる課題が見逃がされていることへの問題点の指摘があります。さらには、改元・代替わり、20年オリンピック・パリリンピック、24年新札発行など、国民の意識をお祭りイベントの嵐に巻き込む一方で、安倍政権が「2020年改正

憲法施行」を公言し「ワイルドな憲法改正案をすすめること」を狙っていることを重視しなければならぬと強調しました。この夏、アベ改憲に根本的なストップをかける参議院選挙があります。平和憲法を守り日本の政治に民主主義を取り戻すことがテーマとなる重要な選挙です。そのためにもあらためて今日の過熱したイベント気分を冷静に見直し、憲法の謳う諸原則の一つひとつを読み返し今日的に吟味する重要性を実感した集会でした。

# 初のまして 谷村です

高教組去員長 谷村壽哉



昨年を振り返ると、数の力にものをいわせた国会運営、県民無視の沖連米軍移設問題、官僚による失言、決済文書の改ざん、いじめを原因とした自殺、児童虐待などなど、私たちが取り巻く社会では多様な出来事が起きました。政治の世界では国民に対する不誠実さや民主主義をないがしろにする暴挙がまかり通っています。今の安倍政権のおごりの現れです。社会や家庭においては痛ましく胸が張り裂けるような事件が増えています。これらは社会の矛盾が弱い子供に伝わってきている現れです。私も去年12月で52「年を取ると涙もろくなる」と言われますが、その意味がよくわかるようになりました。児童虐待や自殺の記事を見ると怒りで涙がこぼれられなくなり、職場で見てもうたつたときにはひそかに無人の教室で泣いたりもします。でも冷静に考えてみるとその加害者も

# 機関誌「こうたいきょう」 原稿募集

機関誌「こうたいきょう」の発行に向けて皆様方から原稿を募集します。さまざまな分野に渡る書翰文、自由論文、研究論文、紀行文、文芸などみなさま方から力作、労作をいただき、高退協の結成とともに続いている機関誌「こうたいきょう」をさらに一層充実したものになりたいと思います。原稿は高教組内高退協事務局へ郵送、またはメールにてお送りください。

機関誌「こうたいきょう」担当 土居修

実は第2の被害者で、このいびつな社会を作っている為政者が最大の加害者であることが見えてきました。高教組の委員長になってみて、ちよつとは身が引き締まる思いでいます。情いっばい頑張りますのでよろしくお願ひします。